

## 令和7年度9月、10月期GSS活動報告（栗駒山地）

岩手南部森林管理署

栗駒山（須川岳）における、令和7年9月、10月期の森林保護員（通称：グリーン・サポート・スタッフ（GSS））による保全活動について、以下のとおりご報告します。

紅葉期に入り、朝夕冷え込む日が増えてきました。雨風の強い日の山頂付近や稜線上では低体温症に注意が必要です。登山される方は、事前に天気予報を確認した上で臨機応変に準備していただき、栗駒山地の自然環境を満喫していただくようお願いします。



### ○9月、10月の天候

9月となり、市街地では連日続いた猛暑が和らいできました。須川高原でも、照り付ける太陽の光が幾分穏やかになり、曇りや雨の日には肌寒く感じる日もでてきました。7月、8月は少雨が目立ちましたが、9月はまとまった降雨がある日も多く須川の水不足は幾分解消されたように感じます。月末には山頂の方から紅葉が始まりました。昨年より1週間ほど早い紅葉シーズンのスタートです。

10月の須川高原では肌寒い日が増えてきました。9月末に山頂から始まった紅葉は、10月半ばには須川高原まで下ってきました。夏季の記録的な少雨もあり、紅葉の色づきへの影響が懸念されていましたが、全体的に色づきの良い紅葉となりました。「神の絨毯」と呼ばれる紅葉を一目見ようと、須川高原の駐車場は早朝から多くの車で賑わっています。



今年の栗駒山の紅葉は色づきが良く当たり年との声も

## ○栗駒山の紅葉

紅葉の山として全国的に名高い栗駒山。東北地方は落葉広葉樹の山が多く、いろいろな山で紅葉を楽しめますが、その中でも栗駒山は「全山紅葉」が見られるとして東北屈指の紅葉の名山となっています。

栗駒山が全山紅葉する理由の1つとして、山麓から山頂まで落葉広葉樹が優勢に分布していることが挙げられます。奥羽山脈に属する八甲田山、蔵王山、吾妻山などの山では、標高1300m前後で「亜高山帯針葉樹林」と呼ばれる針葉樹林が優勢となります。東北の冬の風物詩「樹氷」や「スノーモンスター」といった景観はこの亜高山帯針葉樹林が作り出している美しい景観ですが、常緑の木々がほとんどを占めるため、秋に紅葉することはありません。栗駒山には、多雪や地形的な影響などの理由から亜高山帯針葉樹林の分布がかなり少ないという特徴があります。このため栗駒山では、ミネカエデ、ナナカマドを代表とする落葉広葉樹たちが常緑の針葉樹林に代わって生育しています。

亜高山帯に生育している落葉広葉樹たちは冬季の積雪や強風に耐えうるよう、みな背丈が低くなっているのが特徴で、この景観を「偽高山帯」と言います。東北地方で偽高山帯が見られる山は、焼石岳、鳥海山、月山、飯豊・朝日連峰などの豪雪の山々です。これらの山々では、標高や立地条件の理由から積雪が多すぎるため、山頂、稜線付近では落葉広葉樹の低木すら生育できない場所も多く見られます。

一方栗駒山では、山頂や稜線付近に低木の木々が多く生育しています。立地、気象条件、標高など様々な要因が、いい塩梅で組み合わさっていることが理由と思われる。山の麓から山頂まで落葉広葉樹がくまなく生育しているため、秋には山全体が紅葉する「全山紅葉」の山となり得るのです。



稜線や山頂付近には低木の落葉広葉樹が生育



厳しい気象条件のため低木となった落葉広葉樹

【栗駒山の植生】



標高1500m付近から山頂まで針葉樹林帯が分布

【西吾妻山の植生】



稜線や山頂付近では草原や湿原、お花畑が分布  
(多雪の影響で木々が育ちにくい)

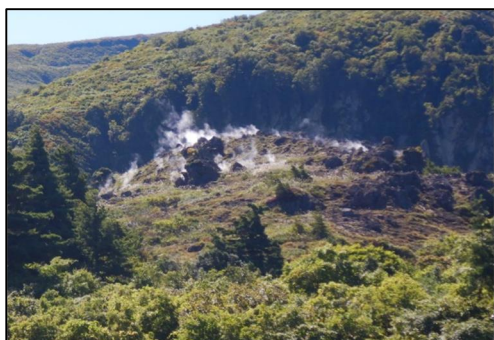
【飯豊連峰の植生】



## ○活火山としての栗駒山

活火山である栗駒山では、火山活動により生じた特徴的な景観が見られる場所が多くあります。現在、栗駒山の火山活動は山体の北側で発生しており、須川高原周辺では、火山ガスや蒸気の発生、溶岩ドームと呼ばれる山体、地獄景観、温泉の湧出など、火山を感じる景観を楽しめます。

栗駒山で直近発生した火山噴火は 1944 年の水蒸気噴火で、これにより「昭和湖」と呼ばれる火口湖が形成されました。昭和湖周辺では現在も火山活動が特に活発なエリアで、火山性ガス（硫化水素）が発生しています。2019 年には火山性ガス濃度が増加したことにより、昭和湖へ向かう道が立ち入り禁止となりました。栗駒北側ではこの他にもいくつかの場所で火山性ガスの発生しているところがあるので、安全のためにも登山道以外の場所へは立ち入らないようお願いします。



ゆげ山

名残ヶ原温泉西方に目立つ岩山。岩の割れ目を伝い地下より湯気が上がっている。この蒸気は二酸化炭素と水蒸気からなり毒性はない。須川にはこの蒸気を使った「蒸し風呂」がある。



剣岳（溶岩ドーム）

「溶岩ドーム」とは粘り気の強いマグマが噴火したとき、溶岩が周囲に流れ出さずその場で冷え固まることでできた山体のこと。この溶岩ドームの名前は「剣岳」という。



地獄景観

火山地帯に特有の景観。荒涼とした白い景観が特徴的。本来は黒色をしていた岩や石が火山ガスや温泉水により白く変色してしまうことで、このような景観となる。



昭和湖

1944 年（昭和 19 年）の火山噴火によりできた火口湖。火山性ガスの活動により、湖面の色がコバルトブルーや乳白色になる。火山性ガスの影響により現在立ち入り禁止。

## ○植生の状況

花の百名山に数えられる栗駒山でも、9月になると見られる花たちはごくわずかとなりました。黄色が目立つミヤマアキノキリンソウ、わずかに花開く紫色のオヤマリンドウなどが登山道を彩っています。名残ヶ原にはカヤの仲間が一齐に伸び始め、秋らしい景観を作り出しています。名残ヶ原の木道脇にはわずかにイワイチヨウの花が残っていました。イワイチヨウは初夏から咲き始める花ですが、花の時期が長く、秋まで見られることもあります。花の名前の由来は、葉の形がイチヨウの葉と似ており、秋の時期には黄色く色づくことからといわれています。秋の時期にはシラタマノキの実も目につきます。シラタマノキの実はつぶすと湿布のようなにおいを発します。においの原因となっているのはサリチル酸メチルという成分で、匂いの通り湿布の原料となります。



ミヤマアキノキリンソウ



オヤマリンドウ



秋に名残ヶ原に繁茂するカヤの仲間



イワイチヨウ



ハクサンシャジン



シラタマノキ (実)

## ○保全活動の実施状況

賽の碩（さいのせき）の木道に沿って張られているロープが古くなったり、一部切れていたりしたため新しいものへの張り換え作業を行いました。賽の碩～名残ヶ原間で、頭をぶつけそうな木にピンクテープを取り付けました。

三途の川付近の登山道上に年老いたツキノワグマの死骸がありました。登山客の通行も多い場所で衛生上の問題などもあるため、スタッフとその他協力者で登山口まで運び出しました。全長約150cmのクマで、体重は50kg程あったかと思われます。想像以上に重く、骨の折れる搬出作業となりました。





賽の碓の立ち入り禁止ロープの張り替え



頭上注意のピンクテープ設置



ツキノワグマ死骸の搬出作業

9、10月もパトロール中多くの登山客にお会いしました。9月はこれまで通り地元や近くの市町村からの登山客割合が多かったですが、10月になると県外から来られた登山客の割合がかなり増えました。山頂付近の紅葉は9月末～10月頭がピークとなっており、山頂には秋以外のシーズンでは見られないほどの人だかりができていました。今月も昨月に引き続き登山道の異常・植物の盗掘などないかについて聞き取りを実施しました。また、植生保護・ゴミの持ち帰りをお願いするカードを配布しました。

10月にて、2025年度の栗駒山地での森林保護員による活動は終了となります。活動に協力いただいた方々に心よりお礼申し上げます。



登山客への情報聞き取りとカード配布の様子